



釈迦ヶ岳からの朝日

## ❁❁ 地域に開かれた医療を目指して～新しい医師像と楽しい職場づくり ❁❁

特定医療法人共和会 副理事長  
山本 直彦

新年明けましておめでとうございます。私が特定医療法人共和会に入職し、この春で1年を迎えようとしています。

今、日本では超高齢社会を迎え、日本の高齢者医療は「治す医療」から「支える医療」への転換が求められています。しかし、実はこの「支える医療」というのが地域によってはスムーズに行われていない現状があります。特に医師にとって「支える」という対応への意識が不十分なケースが見受けられ、地域医療に関する講演や研修会に行くと、会場から必ず聞かれるのが、「ドクターへの敷居が高い」「こういう会にもっと医師が参加して欲しい」という声です。地域医療では患者さんや利用者さんの事を一番熟知しているのは、日々現場で接している多職種のスタッフであり、その声に真摯に耳を傾ける事なくして地域医療は成り立たないのが現実です。そう考えると、地域医療の中で「支え」られているのは、実は医師そのものかも知れません。スタッフに対して命令口調での強い言い方を改め、自戒を込めて「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の域に達したいものです。

さて、こうした新しい医療の風と波は当然ながら共和病院にも及ぼしています。共和会の理念は『優しい医療・楽しい職場』ですが、「支える医療」の中で楽しく働くためにはどうあればいいのでしょうか？ 現在、A館の耐震構造の問題から近い将来、B館を含めて病棟の改築を計画しています。しかし、大切な事はその中身であります。それはすなわち、「良質な医療」とそれを支える「職場環境」です。良質な医療の実現には、病院幹部、職員だけでなく、地域のあらゆる層の方々との議論を通して、地域に開かれた病院を創り上げる事が肝要です。一方、特定医療法人である共和病院の使命は、医療における地域貢献であり、社会への責任であります。各職員が良質な医療の実現という「夢」を共有し、社会に貢献しているのだという「誇り」を持つことが楽しく働く上で不可欠な事です。

各自が夢をきちんとイメージし、リーダーがそれを実現するために大いなる転換を図る事が必要です。組織の経営者は職場に夢を届けるといふ「夢の届けびと」でなければなりません。

今年のNHKの大河ドラマは吉田松陰の妹、文が主人公の「花燃ゆ」です。その吉田松陰の以下の言葉を胸に、共和会の理念を地域の方々と共に堅持して行きましょう。

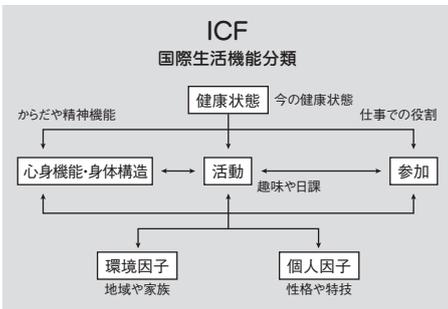
『夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし』



日本医療機能評価機構  
認定シンボルマーク



## 第16回 共和病院 地域医療フォーラム



平成26年12月20日(土)大府市役所において、第16回共和病院地域医療フォーラムを開催しました。

第1部では、「手を繋ごう～地域移行支援」というテーマで半田市障がい者相談支援センター副センター長の徳山勝氏が講演されました。講演では、障がいについての説明から取り巻く環境、その人らしく生きることのお手伝いについてお話いただきました。

障がいについて、ICF(国際生活機能分類)をもとに具体的に自分たちの生活に当てはめることで、「障がい」が誰にでも起こりうることであり、またその障がいを他の生活機能で補うことが重要であることがわかり、ノーマライゼーションの理解につながりました。改めて「環境」の持つ重要性も再認識することができました。

今回のテーマである地域移行支援制度についても、過去の歴史や国際比較から現在に至るまでを福祉サービスを中心にわかりやすく説明していただきました。その中で感じたことは、「病院が頑張る」、「福祉が頑張る」ではなく当事者を中心に福祉・地域・行政・医療それぞれが連携を取り合うことの必要性和重要性の

確認ができました。そして講演の中でもありましたが、それぞれが顔を合わせる関係が連携の要だと感じることができました。

今後の地域移行支援において縦割りの支援ではなく、当事者・各関係機関が手を繋ぎあい取り組んでいきたいと思いました。「手を繋ごう」その言葉がぴったりくる、そんな講演であったと感じました。

看護部 新美 恵介

## シンポジウムに参加して

第2部は「様々な立場からの地域移行支援」と題し、院内、地域の関係機関から4名が報告をしました。

竹内さん(大府市障がい者支援センター相談支援専門員)からは、障がい者支援センターの紹介、相談支援専門員として地域移行支援に取り組んで感じたことの発表がありました。ご本人やご家族との関係作りの重要性、関係機関の協力は必須であり、これまでの活動で作ってきた地域や関係機関とのネットワークの重要性について話されました。

中村さん(瀬戸保健所 健康支援課)からは、瀬戸保健所の概況と、地域移行支援の現状について報告されました。地域移行支援が個別給付化されても、支援が進まなかったこと、関係機関との連携を図るために、支援機関が集まり計画書を作成したことを話されました。

当院精神保健福祉士 濱嶋からは、実際に地域移行支援を利用した事例に対する取り組みの報告をしました。退院に向けての環境調整、ご家族や関係機関との連携、

院内における退院までの支援について話をしました。

私からは、事例紹介と今回の支援に携わって、病棟看護師の立場から感じたことを報告させて頂きました。院内では初めての取り組みであり、それぞれの役割を確認し合いながら支援を進めていきました。長期入院を経て社会復帰を目指す事は、簡単ではありません。シンポジウムを通して、医療以外の視点からの協力が得られることは、私たち医療者にとっても患者様にとっても大きな力になります。病棟看護師として、患者様の希望や不安を受け止め、支援者の方々へそれをしっかりと伝えていき、地域の関係機関との連携を大切に、患者様の希望に寄り添った支援ができるように、今後も取り組んでいきたいと思ひます。

看護部 石坂 あゆ



徳山 勝氏  
(半田市障がい者相談支援センター 副センター長)

松下 直美氏  
(共和病院 副院長 / 看護部長)



左から  
濱嶋 和馬氏 (共和病院 事務部 精神保健福祉士)  
中村 征人氏 (瀬戸保健所 健康支援課)  
竹内 美善氏 (大府市障がい者相談支援センター 相談支援専門員)  
石坂 あゆ氏 (共和病院 看護部 看護師)



## SST委員会 (Social Skills Training)

皆さんこんにちは。SSTのスタッフ一同です。  
SSTって何？と思われる方が多いかと思うので、簡単に説明いたします。

まず、言葉の意味は「ソーシャル スキルズ トレーニング」という英語の頭文字をとってSSTと略しています。日本語で「社会生活技能訓練」と訳されます。主に、対人行動をうまく行えるようになるなどの社会生活技能を高めることに焦点を当てて学び、習得します。

当院では、デイケアでのSSTと入院患者様を対象としているSSTの2つがあります。私たちは後者の方になります。退院に向けて、対人スキル(コミュニケーション)で苦手なことをみんなのアドバイスをもらいながら、上手くできるように練習しています。

例えば、「あいさつした後会話が続かない」「嫌なことをうまく断れない」等、SSTに参加されている患者様が困っているテーマを出され、それについて参加者全員でどのようにしたらいいかを色々提案し、その中でできそうなものを選んで練習します。練習の中で必ずみんなから褒めてもらえます。自分が褒める役割の時もあります。この簡単なようで難しい「褒める」というスキルは、コミュニケーションでとても有効な手段です。

褒めてもらいたい人、SSTに一度見学に来てみてくださいね！

委員長 加藤 順子



## ゲートボール大会 優勝！



平成26年11月7日(金)庄内緑地公園にて行なわれた第30回 希望会ゲートボール大会に於いて、当院デイケアセンターのチーム「侍フリージア」が見事優勝を果たしました。当院の優勝は平成10年以来、実に16年ぶり2回目の快挙です。

希望会とは愛知県内の精神科機関がスポーツや文化活動を通して交流を深める会で、ゲートボールの他にソフトボールや卓球等の大会を催しています。今回のゲートボール大会は29チームの参加があり、例年は県立病院が強く、昨年はその県立病院が優勝から3位までを独占するという状況でした。その県立病院と2回戦で対戦することが決まったとき、選手の殆どは覚悟を決めたようでしたが、諦めずに戦った結果、見事1点差で逆転勝ちをおさめました。その勢いそのまま3回戦、準決勝と勝ち進み、決勝戦にも勝利して見事栄冠にたどり着くことが出来ました。選手からは「頑張って練習した甲斐があった」、「デイケアに参加して良かった」、「嬉しい!」、「自信になった」等の感想が挙がりました。後日に行なった祝勝会は近隣の寿司割烹料理亭の豪華なご馳走を打ち、みなさんご満悦でした。

デイケアセンターには優勝旗と県知事賞のトロフィーが掲示してあります。ぜひお立ち寄りになってご覧頂きたいと思います。これからも侍フリージアは頑張りますので応援の程どうぞよろしくお願い致します！

デイケア課 朝倉 起己



## 編集後記



新年 明けましておめでとうございます。2015年が始まり今年一年が私にとって、どんな年になるか分かりませんが充実した年になれば良いと思います。しかし何をしても健康で過ごす事が一番なのではないかと思います。そのためには自己で防げる風邪予防の手洗い、うがい、肥満にならないよう食事の管理をしっかりする必要があります。

まずはそこからだと思います。今年、娘が中学生になるので私もしっかりしないと…。

今年のWA!のカラーは、2015年の風水ラッキーカラーのひとつ、パワーを与えてくれる「緑」を選びました。みなさんに元気になってもらえるような広報誌になるよう頑張っていきたいと思っています。今年も宜しくお願いします。  
広報誌委員会 石坂 裕教

看護部集合教育 『笑いを届ける活動をとおして』



笑いは身体の免疫や自己治癒力を高めると言われ、認知機能が低下している方であっても笑顔は伝わると思われます。しかし、患者様やストレスを抱えている方は笑おうと思ってもなかなか笑えません。笑い療法士は、そんな方から心温まる笑いを引き出し、その方自身の生きる力を引き出す役割を担っています。

平成26年11月27日(木)外部講師をお招きしての講演会をおこないました。今年は、福祉施設の施設長であり“マジカルパーフォーマー タップリン”としてご活躍されている大西広行さんをお招きして、楽しく元気になるお話をお伺いしました。講演会が始まる前からパフォーマンスをご披露くださり、楽しい雰囲気の中で講演会が始まりました。

大西さんは「笑い療法士」として、福祉施設・福祉団体・医療施設・子供会等でご活躍されており、さらには災害復興支援の活動をされています。自然と笑いを引き出し、笑いと感動を与える活動です。

私自身も災害支援ナースとして現地で活動させて頂き、数日滞在しただけで笑うことを忘れるほどの衝撃でした。あのような現場で笑いを引き出すことが、いかに困難なことでありながら何より必要なことであるかを学ばせて頂きました。

私たちも医療従事者として、病院という場で笑い(笑顔)を引き出し元気になって頂くことに努めなければいけないと感じました。

とても楽しく貴重な時間を過ごさせて頂きました。

看護部教育委員会 副委員長 山田 美紀



専門看護師を取得しました

職員の石川恵己さんが、当院初となる精神看護の専門看護師(Certified Nurse Specialist 略してCNS)認定試験に合格しました。複雑な課題を持つケースへの支援で役割モデルを実践しています。職員からの信頼も厚く、更なる看護の質の向上への貢献に期待いたします。



お知らせ

● 3月7日(土)

第6回 共和病院 研究発表会を行います。  
場所/共和病院C館4階 多目的ホール



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切にして、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報 は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



特定医療法人 共和会

共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>